



世界の国に目を向けよう～マラウイ～

広島県広島市立狩小川小学校

担当教科：6年担任

鳴戸 由江

◆実践教科：総合的な学習の時間 ◆時間数：11時間（全30時間） ◆対象学年：第6学年 ◆対象人数：46名

ココがすばらしい!

様々なアクティビティを通して、児童にとって身近で興味を持てる授業を展開。マラウイを知るだけでなく、世界の現状を知ることから、自分の生活を振り返り、そこから「今の自分たちでできること」を考えるという授業の流れが素晴らしかった。

カリキュラム

◆実践の目的

- ・世界にはいろいろな国があることを知り、世界の人々と共に仲良く生きていこうとする心情や実践力を育てる。
- ・マラウイを通して、異文化への興味関心を高める。
- ・マラウイの生活や子どもたちの様子から自分たちの生活を見つめなおす。
- ・世界で活躍する日本人について知り、生き方や国際協力について学ぶ。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
事前	児童の実態を把握する マラウイの学習への意欲を高める	・アフリカのイメージについて ・子どもの意識調査 ・マラウイの子どもたちに習字のプレゼントを作る	・ワークシート ・アンケート用紙
1	マラウイとつながろう マラウイの国の様子を知る	・マラウイの小学校での交流の様子を知る ・マラウイの国について知る	・マラウイの地図 ・写真・絵葉書・色紙 ・マラウイDVD（細川先生提供） ・パワーポイント
2 3	世界の現状を知ろう ・世界にはいろいろな国があることを知る	・夜の地球の写真とハンガーマップから世界の現状を知る ・「世界がもし100人の村だったら」から世界の現状を知る ・発展途上国について知る	・世界地図 ・「世界がもし100人の村だったら」 ・夜の地球の写真 ・ハンガーマップ
4	マラウイってどんな国（生活1） マラウイの文化・生活に触れることを通して物の大切さに気付く	・マラウイの生活について知る ・マラウイのものとの付き合い方を考える	・写真 ・パワーポイント
5	マラウイってどんな国（生活2） マラウイの文化・生活に触れることを通して食べ物や水の大切さに気付く	・マラウイの生活を体験してみよう（手洗い） ・マラウイの食べ物と食糧事情を知る	・写真 ・パワーポイント ・バケツ ・水差し
6 7	マラウイってどんな国 （マラウイの子どもたち） マラウイの子どもたちの現状から自分たちの生活を見つめ直す	・マラウイの学校について知る ・将来の夢や好きな遊び・好きな食べ物についてマラウイの子どもたちと日本の子どもたちと比べる	・写真 ・パワーポイント ・DVD（マラウイの学校） ・アンケート
8	海外で活躍する日本人 青年海外協力隊の活動を知る	・青年海外協力隊の活動の内容を知る ・青年海外協力隊の活動を考える ・青年海外協力隊の活動について考えたことを共有する	・世界から教室へのメッセージ（基礎編）

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
9 ・ 10	青年海外協力隊の体験を聞こう 海外で活躍する人の生き方や 国際協力について学ぶ	・「ほしいもの・必要なもの」ゲームをする ・青年海外協力隊の体験を聞く ・メキシコの実情を知る ・メキシコの文化に触れる	・ JICA出前講座
11	学習したことを振り返ろう	・これまでの学習を振り返り一番心に残ったことを話し合う ・自分たちができていることを考える	
12 } 30	ワールドタイム (調べる・まとめる・発表する)	・自分が調べたい国を考えよう ・国調べをしてプレゼンテーションにまとめよう ・自分が調べた国を発表しよう	

授業の詳細

1 時限目 マラウイとつながろう

- ・マラウイの小学校での交流の様子を知る
マラウイの小学校でクラスの子供たちが書いた習字をプレゼントしたことや、広島市の平和教育をしたことなどパワーポイントを使って話をしながら写真を見せていった。



授業の様子



色紙に名前を書いてくれている

- ・マラウイの国について知る
DVD(“マラウイの国編”)を見せて国の様子を知らせた。



DVDで国の様子を見てみよう

児童の感想

- ・マラウイの人は、電気や水道がないくらしの中で楽しく歌を歌ったり踊ったり楽しそうに生活しているのが驚いた。マラウイのことがもっと知りたいです。
- ・食べ物もあるし食器もあるし私の思っていたイメージとは違いました。でも、お風呂が外にあって寒そう。
- ・マラウイの人はみんな笑っていて幸せそうだなと思いました。私が書いた習字を持っている男の子が「結香は友だち」と言ってくれたことを先生に聞いてとてもうれしくなりました。その人に会ってみたいです。

<所感>

児童は、自分たちが書いた習字がお手本にしてみらえたりプレゼントしたことを喜んでもらえたりしてマラウイの子供たちとつながっていることを感じることができた。教室の黒板の上に貼ってある色紙がどのようにして書かれたのかも知ることができ喜んでいった。マラウイの話は、待ち望んでくれたのでとても興味を持って聞いてくれた。DVDは、短く分かりやすく編集されていたのでマラウイの学習していく上での導入としてとても有効であった。

2・3時限目 世界の現状を知ろう

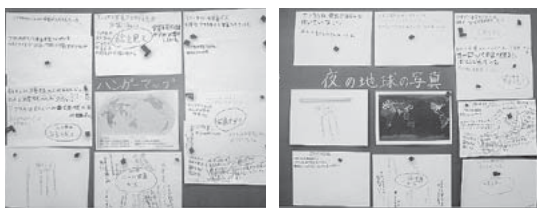
- ・夜の地球の写真とハンガーマップから世界の現状を知る
夜の地球の写真とハンガーマップを見て気づいたことを班で用紙に書き、気付きを交流しあった。

・「世界がもし100人の村だったら」から世界の現状を知る

インターネットで探した動画を見せながら話を読んだ。そして、世界にはいろんな国があることを知らせた。



班での話し合い



板書

板書

児童の感想

- ・世界では、大変なことが起こっていることがわかった。世界中の人と比べると自分たちがどんなに幸せな暮らしをしているのかが分かった。
- ・貧しい暮らしをしている人が世界中にはたくさんいることをはじめて知った。これからは、給食を残したり無駄なことをしたりしないようにしていきたい。
- ・これからどんどん勉強して、国際社会のことを知りみんなが仲よく暮らしていける方法を考えていけたらと思っています。
- ・地球はひとつなのに世界にはすごく違いがあり、日本は、平和な国ですごく電気を使っていることに驚いた。今の暮らしに感謝したい。

〈所感〉

世界中にはいろいろな人がいて生活の違いがあることに気づいて、自分たちの生活を見直していかなければならないと感じている児童が多かった。世界中のことをもっと知りたいという意欲にもつながっていったと思う。

4時限目

マラウイってどんな国（生活1）

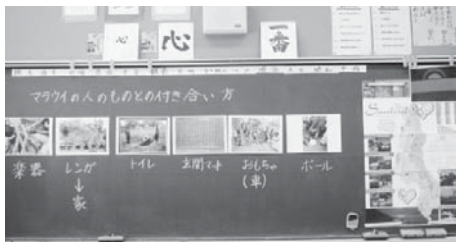
- ・マラウイの生活について知る
マラウイの生活について（家、食べ物、学校、子どもたちの様子など）クイズを交えながらパワーポイントで写真を見せた。



バオバブの木と家



マラウイの子どもたち



ものとの付き合い方

児童の感想

- ・マラウイの人は、私たちが捨ててしまうものまでちゃんと使っているのだと思いました。地球に優しい生活をしている人たちだと思いました。私たちはごみを出しすぎているのではないかと思います。
- ・自分たちが使うものを自分たちで作っているマラウイの人は、想像力が働いてて手先も器用なのかなと思いました。物を大切にしていきたいです。
- ・知恵を出し合って協力して生活しているから人々が仲がいいのではないかと思います。
- ・日本に比べたらマラウイは貧しい国だけれどもみんな笑顔で幸せそうで楽しそうでした。

〈所感〉

クイズ形式で楽しく興味を持って授業を進めることができた。全部自分たちが生活で使うものを自分たちの手で作っていることを知って驚いている児童が多かった。また、物を大切にしたりごみを出さない生活をしたことについても考えることができた。

5時限目

マラウイってどんな国（生活2）

- ・マラウイの生活を体験してみよう（手洗い）
初めに水を汲んで頭の上に載せている人の写真を見せて何をしているところなのかを話し合わせた。次にマラウイと日本人一人当たりの一日の水使用量について知らせ、自分たちの生活で水は何に使われているのか班で話し合わせて思いつくものを一班10枚の付箋に書き出し合っていた。

ホームビジットでの食事のときに体験した手洗いについて話をした後、マラウイの手洗い体験を実際に行ってみた。約1.8リットルの水差しの水で何人手を洗うことができるか予想をさせて始めた。きれいに洗えたと感じた時点で体験者はストップと声をかけるといった条件で体験を始めた。一番予想の数が多かった13人まで手洗いを続けたが水は3分の1もなくならなかった。このことから学年全員が手洗いできるだろうという結果になって大変盛り上がり手洗い体験を終えることができた。



何人洗えるかな？



一人当たりの水の使用水量マラウイと日本の比較

・マラウイの食べ物と食糧事情を知る

食事の前の手洗いとつなげるために、マラウイで私たち日本人があらゆるところで食べたあらゆる食べ物をスライドショーで見せていった。

児童の感想

- ・私は、二人目に手を洗ってみたけど、少ないのに水が多く感じました。水を少なく使おうと思えば少なく使うことができるのだと思いました。意識すればエコロジ的な生活ができると思いました。
- ・日本人の一日の水使用量は、多すぎることに気がつきました。無駄遣いしなければ少しの量でも手がきれいに洗えることを実感しました。水を出せばなしにしないように水を大切に使いしていきたいです。

<所感>

水が生活の中で大切なことは分かっているが、全員が無駄がないように使っていきたいという意識が出てきたことはよかった。とても盛り上がった授業になった。

6・7時限目

マラウイってどんな国 (マラウイのこどもたち)

・マラウイの学校について知る

マラウイの学校の様子についてDVDや写真で知らせた。

・将来の夢や好きな遊び・好きな食べ物についてマラウイの子どもたちと日本の子どもたちと比べる

事前にとったアンケートをスライドショーで見せた後、同じところと違うところを別々の用紙に班で書き出させていった。書いた用紙を回して、他の班が書いたものを共有していった。



マラウイの子どもたちと自分たちを比べてみよう

<所感>

マラウイの子どもたちと自分たちを比べることによって、自分たちの生活を振り返る機会となった。

学校の環境は、違ってもマラウイの子どもたちはみんな夢を持っている。制服があることやサッカーが好きなことが同じであることを感じ取ることができた。

8時限目

海外で活躍する日本人

- ・青年海外協力隊の活動の内容を知る
- ・青年海外協力隊の活動を考える
- ・青年海外協力隊の活動について考えたことを共有する

児童の感想

- ・日本人の中には、貧しい人たちのために一緒に生活して働いている人がたくさんいることを知りました。また、たくさん職種があることに驚きました。
- ・現地の言葉で話すのは大変そうだと思います。
- ・青年海外協力隊の活動を通して世界の国々が仲良くなるとういなと思いました。

<所感>

クイズ形式でワークシートができていたので楽しく学習することができた。

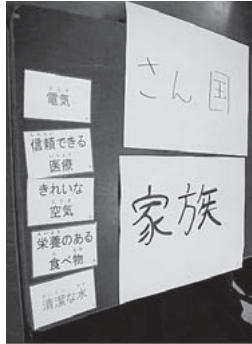
9・10時限目

青年海外協力隊の 体験を聞こう

- ・「ほしいもの・必要なもの」ゲームをする



「ほしいもの・必要なもの」ゲーム



- ・青年海外協力隊の体験を聞きメキシコの実情を知りメキシコの文化に触れる



奥田さんからのメキシコのお話

児童の感想

- ・ゲームの中で必要なものを三つまで減らせという命令が出たときはとても悩みました。でも、アフリカや南アメリカの国々ではこれが現実だということを知りました。
- ・私たちが当たり前に使っているものがない国もいっぱいあることが分かりました。日本は、本当に裕福な国だと思いました。
- ・メキシコの話が聞けてよかったです。もっとメキシコの話が聞きたかったです。

〈所感〉

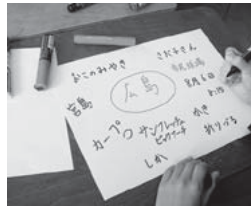
「ほしいもの・必要なもの」ゲームを通して世界の現状(国の格差)を感じ取ることができた。

児童はとても楽しんで参加し、メキシコのお話は児童にとっても新鮮に感じられ興味を持って聞くことができた。

11時限目

学習したことを振り返ろう

- ・これまでの学習を振り返り一番心に残ったことを話し合う
- ・自分たちができることを考える
マラウイの人ともっと仲よくなるためには、広島のことも伝えたいという流れになり、広島のことについて伝えたいことを班で話し合い、みんなで共有していった。



広島のことを伝えよう



児童の感想

- ・マラウイのことをもっと知りたいと思いました。そしてもっと仲良くなりたいです。アフリカのほかの国のことも知りたいです。
- ・世界の現状について知り非常に残念な気持ちになりました。また、世界中の国が平等でないことに気づきました。
- ・世界中の人々が仲よく平和な暮らしができるように自分のできることを考え行動していきたいです。
- ・一度、マラウイに行ってみたいです。マラウイの人の生き活きとした生活の秘密を考えていきたいです。

成果と課題

マラウイの学習を子どもたちがとても待遠しく思い、みんなが興味を持って楽しく学習することができたことが一番の成果だと思う。私の体験を素直に受け取り、子どもたちなりにしっかり考え、マラウイにいつか行って見たいという気持ちになった子どもたちの姿を見て一緒に考え学習してよかったと思っている。そして何より、自分自身を見つめなおす時間になった。地域の意見発表会のときにもマラウイの学習を通して学んだことをテーマにして発表をしてくれた児童がいて本当に嬉しかった。世界の現状を知るとともに生き生きと暮らしているマラウイの人々や笑顔の秘密を知りたいと思ってくれたところが印象に残っている。

「共に仲良く暮らしていこう」をテーマに道德の時間と総合的な学習の時間や各教科、日常活動な

どで総合単元的な道徳学習を組み、国際理解や親善について考えさせていった。ねらいに迫るためにまず、総合的な学習の時間の国際理解の学習では、マラウイ共和国を取り上げ、児童の意識が世界に広がっていくように学習を進めていった。世界に目を向け、世界の実情を知り、自分たちの生活を振り返りながら自分たちのできることを考えさせていった。そして、道徳の時間には、世界の人々と互いに理解し合い共に仲良く暮らしていくことをしっかり話し合わせていった。

理解にとどまることなく、異なる文化を持った人と共に仲良く生きていこうという意欲が高まっていたと思うが、伝えきれなかったこと、まだまだ伝えたいこともたくさんあるのでこれからも子どもたちや多くの人に伝えていけたらと思っている。

早速、来年の夏には広島市の多くの先生方にお話させてもらえる機会が決まっているのもう一度伝えたいことを整理しなおしておきたい。

参考資料

【書籍】

- ・「社会科教科書」東京書籍
- ・JICA中国「世界から教室へのメッセージ」
独立行政法人国際協力機構 中国国際センター

【インターネット】

- ・「夜の地球の写真」
<http://recyclingnetwork.blog102.fc2.com/blog-entry-289.html>
- ・「動画で見る100人の村」
<http://www.oasisjapan.org/100nin.html>

